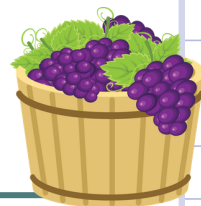


地域教育情報誌

チュウホク ドット コム
中北.com

中北教育事務所
教育支援スタッフ
TEL 0551-23-3046



中北の地域社会（community）の心の交流（communication）をめざします

Pickup!

「いつも」も「もしも」も

7月25日、中北地域県民センター主催の親子のための防災講座が開催され、約50名の親子が参加しました。6月には県内でも大きな地震が発生するなど、防災への関心が高まる中で開かれた今回の講座。参加した親子は、講演や体験活動を通して、楽しみながら防災について学びました。



大切な命を自分で守る

前半は、リズムオブラブ主宰者で防災士でもある渡辺 光美 さんによる講演です。親子でふれあいながら命の大切さについて考え、その命を守るためにできることを学びました。

渡辺さんは、日常の中に防災を組み込む「フェーズフリー」の考え方を紹介。参加した親子は、黒いゴミ袋を使ったポンチョ作りに挑戦し、普段使うゴミ袋が非常時には授乳や着替えの際の目隠しとして役立つことを学びました。

見て、触れて、体験する

後半は、親子で段ボールベッドの組み立てを体験しました。保護者からは、「子どもが自分からしっかり動いてくれて驚きました。自分や周りの人を守るという自信につながったと思います。」との声が聞かれました。

屋外では、消防車の見学や消火器体験、煙体験も行われました。

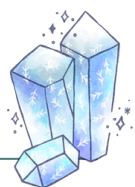
参加した保護者は、「今日の講座をきっかけに、家族で防災について話し合い、できることから取り組んでいきたいです。」と話していました。

今回の講座で親子がともに学び、体験した時間は、いざというときに自分や周囲の人の「命を守る力」を育む機会となったことでしょう。

今回の講座から3日後、令和8年熊本地震が発生しました。犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ、自らの命と大切な人を守るための学びを積み重ね、「もしも」を心に留めておくことの大切さを、改めて感じます。

Pickup!

発見いっぱい！ 伝統文化を体験



8月8日、土屋華章製作所で、水晶研磨工房の見学とワークショップが行われました。これは、甲府市教育委員会 歴史文化財課が主催する、甲府の伝統文化を楽しく学ぶ体験イベントで、この日は子どもたちとその家族が参加しました。



自分の手で宝物作り

参加者は工房で、職人たちが水晶を加工する工程を間近で見学しました。

その後、作品作りの最後の工程となる磨き上げ作業に挑戦。好きな石を選び、研磨機で丁寧に磨いていきました。少しずつ輝きを増していく石に、子どもたちは夢中です。磨き上げた石は、世界に一つだけの宝物。光る石を手のひらにのせて、大切そうに眺めていました。

山梨が誇る水晶加工

約200年の歴史を持つ老舗の水晶工房・土屋華章製作所。参加者は、伝統工芸士で7代目華章の土屋 隆さんと、学芸員の若月 千佳さんから、山梨が誇る水晶加工の歴史について学びました。

若月さんは、約3万年前の東北地方の遺跡から、山梨産の水晶で作られた装身具が見つかったことを紹介しました。土屋さんは、江戸時代の台帳や道具を披露しながら、甲府の水晶加工の歴史について伝えました。

資料や作品の写真を見た子どもたちは「機械がない時代に、どうやってきれいに磨いたんだろう。」といった声上がり、昔の職人たちの技術の高さや努力に思いを巡らせていました。



ふるさとの魅力を発見

イベントに参加した子どもは、「櫛や眼鏡も水晶で作っていたなんてすごい。」と感想を話してくれました。土屋さんは、「山梨は水晶から始まった宝石のまち。機会があれば、その魅力を県外の人にも伝えてほしい。」と呼びかけました。

水晶に触れ、職人の技を見て、その歴史を学んだ半日。子どもたちは、ふるさとに受け継がれてきたものづくりの奥深さと魅力を改めて実感していました。

ギター館長が届ける本との出会い

～ 荏崎市立 大村記念図書館のおはなし会 ～



荏崎市立大村記念図書館（守田 一雄 館長）では、館長のギター演奏を取り入れたおはなし会を行っています。館内での開催に加え、保育園や子育て支援センターにも出向き、子どもたちに本の楽しさを届けています。

広がるおはなしの世界

7月10日、荏崎市立たんぽぽ保育園のお遊戯室に子どもたちの元気な歌声とギターの音色が響きました。この日の出張おはなし会には、年少から年長までの約90人の子どもたちが参加し、絵本や歌の世界を楽しみました。

おはなし会は手遊び歌から始まり、ボランティアによる絵本の読み聞かせ。そして、司書によるエプロンシアターへと続きます。館長のギターが効果音として加わると、おはなしの世界がさらに広がりました。

「わあー！」と歓声が上がり、子どもたちは夢中になって見入っていました。最後はギターに合わせてみんなで歌います。肩を揺らしながら元気いっぱいに歌う子どもたちの笑顔で、会場は盛り上がりました。



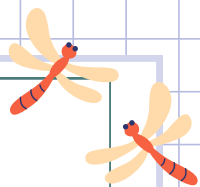
未来の読者づくり

本格的に音楽活動をしていた経験を持つ館長は、「子どもたちと触れ合いたい」という思いから、おはなし会にギターを取り入れたそうです。「子どもたちは最高の観客です。私自身も一緒に楽しんでます。」と、活動への思いを語ってくれました。

また、長年書店に勤務した経験もあり、子どもたちの活字離れを実感していたといいます。「子どもたちは未来の読者です。このおはなし会をきっかけに、図書館や本を好きになってほしいです。」とも語ってくれました。

館長はまた、図書館が行き場のない子どもたちにとっても、安心して過ごせる居場所になればと考えています。「図書館が落ち着ける空間だと感じる子もいると思います。例えば、そういった子どもたちに向けて、初めてのギター教室を開くなどしたいです。それがきっかけで本に親しんでもらい、図書館が子どもたちにとっての居場所になればうれしいですね。」

ギターの音色とともに届けられる本との出会い。大村記念図書館は今日も、子どもたちの笑顔が集まる温かな場所として親しまれています。



未来を拓く「学び」の輪を、地域とともに

韮崎市教育委員会 教育課 生涯学習アドバイザー

松本 恵子 さん

韮崎市生涯学習アドバイザーは、子どもからシニアまで、市民の皆さんの「学びたい」という思いを応援し、人と学び、地域をつなぐ架け橋となる役割を担っています。社会の変化が激しい今、誰もが生涯にわたって主体的に学び続けることの大切さは、ますます高まっています。

主な仕事は、公民館や育成会などの活動・運営に関する相談に応じるほか、地域の課題やニーズに合わせた研修会、体験教室などを企画・実施することです。

7月には、アナウンサーを講師に迎え、「親子発声教室」を開催しました。アットホームな雰囲気の中で、親子で発声の基本を学びました。はじめは緊張して小さな声だった子どもたち。講師の先生の魔法のような言葉に導かれ、コツを掴むと表情が一変しました。練習を重ねるにつれて、子どもたちの声はみるみる力強くなっていきました。自信を持って声を出す姿、そのまっすぐな声の響きに保護者の皆さまも驚いていました。講師が一人一人に寄り添い、小さな変化や頑張りを認めることのできる、温かな時間となりました。

スマートフォンやゲームが身近な今だからこそ、画面から少し離れ、五感を使って学ぶことや、家族で同じ体験を共有することには、大きな意味があると感じています。

こうした活動を通じて、地域・学校・行政がつながり、「地域の子どもは地域で育てる」という輪をさらに広げていきたいと考えています。大人が生き生きと学び、その背中を見て子どもが健やかに育つ。そんな、人と人、学びと地域が優しくつながる循環を、これからも皆さんと一緒につくってきたいと思います。

Interview

キラリ☆まちのひと

今回は、頑張る中学生を紹介します。



世界の舞台で得たもの

南アルプス市立櫛形中学校2年の羽田 圭吾さんは、世界大会「FLL International Open Championship Mexico 2026」に出場し、優秀エンジニアリング部門第1位をはじめ、4部門で優秀な成績を収めたチームの一員です。FLLは、ロボット競技とプロジェクト発表を通して、チームワークや創造力、問題解決能力を育む大会です。国内大会を勝ち抜いた羽田さんたちは、5月にメキシコで開かれた世界大会の舞台に立ちました。

大会に向けて半年以上にわたって、セミナーへ参加したり、専門家に助言を求めたりしながら研究を進めました。その中で、メンバー一人ひとりが意見を言える信頼関係ができあがり、チーム一丸となって大会に臨んだそうです。

世界大会では、各国の代表チームと競い合うだけでなく、対戦相手であっても互いを尊重し励まし合う交流も経験しました。「後悔だけはしたくないと思っていた。楽しみながら自分たちの力を出し切れた。」と、充実した表情で振り返ります。この経験を通して、自分の考えを表現し、行動する力が身についたそうです。また、支えてくれたコーチや家族への感謝の気持ちも一層深まりました。

現在は、チームの最高学年として、次の大会に向けて準備を進めています。「研究することが面白い」と目を輝かせる羽田さん。将来は海外で活躍したいという夢を語ってくれました。仲間と探究する楽しさや世界中の子どもたちとの出会いは、羽田さんの視野を大きく広げ、夢へ向かう確かな一歩となったようです。

紙面を飾ってみませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。
学校や地域、諸団体での様々な取り組みを、ぜひ取材させてください。問い合わせは右記までお気軽にお声がけください。

令和8年度 『中北.com』 No. 3
編集・発行 中北教育事務所
担当 花形 健一・江川 みづほ
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4
電話 0551-23-3046